

### 3 学校・家庭・地域との連携

地域の自然や文化、人材を生かした幅広い体験的な学習を進める中で、学習が充実するように、家庭や地域との連携を大切にすることで、多様な教育力を学習に生かすよう工夫し、様々な活動を進めている。

#### (1) 望ましい学習・生活習慣の定着化

##### ア 「みんなの学習クラブ」を核とした「学びのシステム」の構築

本校は学力調査において、全国に比べて学習内容を十分理解していない児童の割合がやや高い。また、島内には学習塾が少なく、塾に通っている児童も少ない。こうした実態を受け、学校や家庭にあるパソコンやタブレット端末を活用し、「(株)日本コスモトピア」が作成・提供している「みんなの学習クラブ」を活用することにした。

学校では、授業や「チャレンジタイム」(月曜日から金曜日までの清掃活動後の15分間を「チャレンジタイム」と呼び、国語や算数の学習プリントなどを使って学習をしている)で学習プリントを活用するとともに、家庭配信版を使って家でも復習ができるようにしている。このように、児童が学習の振り返りを行う場を複数設けることにより、教職員や保護者等の学習支援の下、分からないことを分かるようにしながら、学習内容を確実に身に付けられるようにした。

さらに、児童が目標を持って学習プリントに取り組めるように、ファイルに綴じさせている。児童は、100枚たまったら、校長先生にうれしそうに持っていく。枚数に応じた表彰もあり、児童は、友達と競ったり自分の目標枚数を決めて取り組んだりしている。



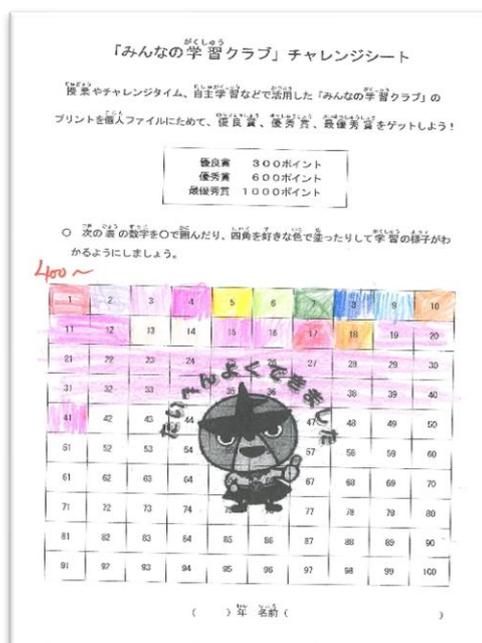
【チャレンジタイムの様子】



【学習プリント】



【朝会での表彰】



【チャレンジシート】

## イ 学び直しの場「<sup>むげんじゅく</sup>夢現塾」の設定

5、6年生の希望者を対象に、放課後30分間「夢現塾」を開講し、算数の学び直しを行っている。指導は、複数の教師と弓削商船高専の学生「弓削っ子サポーター」が行っている。

児童は、個人の進捗表を確認しながら、学習プリントを選択し、合格点であれば進捗表に印を付けてもらう。間違った問題があった場合は、教師や弓削っ子サポーターに自分の解答の手順を説明し、どこで間違ったのか、どうすれば正しい解答になるのかなどを、自分の力で気付けるように工夫している。学習プリントは全ての学年のものを自分で選ぶことができ、苦手な単元を繰り返し取り組むことも、発展問題にチャレンジすることもできるので、個々に合った学習ができています。



【「夢現塾」の様子】



【「弓削っ子サポーター」に質問をする児

### 「夢現塾」における児童と「弓削っ子サポーター」の感想

#### [児童]

- ・今まで分らないところは、ほっとしていたけど、夢現塾では、分らないところを教えてもらえるのでできるようになってきた。
- ・夢現塾で復習をしているので、忘れていた解き方を思い出せた。算数のテストでいい点が多くなったと思う。
- ・弓削っ子サポーターが、優しく教えてくれるので質問しやすかった。
- ・全問正解だった時、弓削っ子サポーターが、「すごいね」と褒めてくれてうれしかった。

#### [弓削っ子サポーター]

- ・教室の出入りに挨拶をして、後片付けもきちんとして帰るので礼儀正しい。小学生と接する機会が少ないのでよい経験になった。素直に聞いてくれてかわいい。
- ・「ここが分かりません」と声を掛けてくれた。目で訴えてくる子もいた。自分が小学生の時は、先生に聞きたくても聞けなかったので、質問に丁寧に説明してあげたい。
- ・「答えは分かるけどなぜこうなるかが分からない」と質問され、どう説明したらいいのか困った。分かるように説明するのは思ったより難しい。

## ウ 「学習強調週間」による家庭学習の定着

家庭と連携を図りながら、学習習慣を確立していくために、毎月、第1週を「学習強調週間」と位置付け、「生活・学習習慣調べ」を作成し、保護者に記録や確認をしてもらっている。「生活・学習習慣調べ」には、めあて、起床時間、朝食、学習時間、テレビ等の視聴時間（ゲームを含む）、睡眠時間の記入欄を作った。

「学習強調週間」中は毎日、保護者と学級担任が確認し、褒めたり励ましたりしている。1週間を終えると、児童や保護者は、感想を記入する。教師は、そのコメントを読み、保護者の考えを把握したり、次月に生かせるアドバイスを記入したりしている。期間中も、保護者から、「……が分かっていないので一緒にしました」「集中できないのでどうしたらいいでしょう」などの相談もある。担任は、家庭で児童の学習をしっかり見守ってくれていることを称賛した上で、家庭でのルール作りの大切さや子どもに合った勉強方法などの相談や質問に答えている。さらに、児童が、めあてをもって毎月頑張れるように、点数化して金賞・銀賞・銅賞シールを貼るなどしている。

学校HPにも児童の頑張る様子や保護者の励ましの声を掲載するようにしている。

**[得点の判断基準]**

〈学習時間〉  
2点…学年+20分  
1点…学年+10分

〈テレビ等の視聴時間〉  
2点…30分以内  
1点…60分以内

〈1週間分の合計得点〉  
金賞…25点以上  
銀賞…20点以上  
銅賞…15点以上

3月 生活・学習習慣調べ

学習環境を整え、きちんとした生活習慣・学習習慣を身に付けましょう。

★ 時刻や時間、よくできた○、できなかった△を付けましょう。 (5)年 氏名( )

めざせ! 家庭学習のめあて 算数の「単位数あたりの大きさ」をやる。 生活のめあて 早ね早起きをする!!

月日(曜日)	朝、何時に起きたか。	朝ご飯を食べたか。	家庭学習をした時間	家庭学習のめあてが達成できたか。	自主勉強	テレビ(ゲームを含む)を何分見ましたか。	夜、何時に寝たか。	生活のめあてが達成できたか。	家の人の印	先生の印
3/1(月)	6:05	○	130分	○	大字のけいこ 算数 単位数あたりの大きさ	15分	9:10	○	偉大な母	見ました
3/2(火)	6:50	○	110分	○	大字のけいこ 算数 単位数あたりの大きさ	30分	9:15	○	偉大な母	見ました
3/3(水)	5:45	○	130分	○	大字のけいこ 読書 単位数あたりの大きさ	30分	9:15	○	偉大な母	見ました
3/4(木)	6:5	○	150分	○	大字のけいこ 音読 単位数あたりの大きさ	15分	9:20	○	偉大な母	見ました
3/5(金)	6:5	○	110分	○	英語 単位数あたりの大きさ	30分	9:45	○	偉大な母	見ました
3/6(土)	7:00	○	150分	○	水泳 漢字 単位数あたりの大きさ	30分	9:30	○	偉大な母	見ました
3/7(日)	6:45	○	150分	○	単位数あたりの大きさ 漢字 自主勉強	30分	9:30	○	偉大な母	見ました

自分の振り返り 次は「速さ」の勉強をする。

家の人から 「単位数～大きさ」毎日やるとね。理解度はどうだろうか? 勉強もあつち、苦手なところをいつかわかちあいに変えていこう!! 父・(母)・きょうだい先生をうまく活用すべし! クラウド

先生から 先生をどんどん活用しよう! いても、どうでも先生は味方です! (年間、頑張りました。来年もがんばり)

【生活・学習習慣調べ】

## (2) 地域との協働活動

### ア まんじゅう山アスレチック・トリムコース

弓削小学校のすぐ側にある伊勢山（通称まんじゅう山）に設置されている「まんじゅう山アスレチック・トリムコース」は、自然に親しみながら運動を楽しむことができ、本校児童の大好きな場所の一つである。

このアスレチック・トリムコースは昭和52年9月、当時の弓削小学校の保護者や教職員が、「子どもたちが楽しく、体力作りに利用できる施設を作ろう」と、廃品の電柱や古タイヤを大量に集め、夏の暑い中、休日を返上して作り上げた手作りのトリムコースである。40数年経った現在も、施設の補修や草刈り等の環境整備を行い、児童の笑顔が集まる楽しい場所である。

児童は、授業や休み時間に「まんじゅう山」で楽しみながら体力作りを行っている。また、ドングリやたくさんの枝を手にして遊ぶなど、自然の中で遊ぶ楽しさを味わうことができる場所にもなっている。

家庭で、「まんじゅう山」のことを話した児童の中には、この施設を作った人の中に、自分の祖父もいたことを知り、とてもうれしそうにしていた。また、日曜日に、家族と一緒に来て楽しむ児童もいる。卒業を前にした6年生が「アスレチックの看板を作りたい」と言い始めるなど、今では、「まんじゅう山」は、児童の大切な場所となり、大切に守っていききたい宝物になっている。



【昭和52年の施設設置作業の様子】



【元氣よく「まんじゅう山」で遊ぶ児童】

## イ 「海を泳ぐこいのぼりプロジェクト」

地域を活性化し、子どもたちを笑顔にしたいというPTAの思いから「海を泳ぐこいのぼりプロジェクト」を平成29年度から実施している。地域の方々からいただいたこいのぼりを運動場で泳がせるという企画である。保護者や地域に呼び掛けた翌日からこいのぼりが学校に届き始め、次第に数が増えていった。

プロジェクト当日は、漁協や地元企業の方の協力により、クレーン車を使って取り付けていた。地域の橋の架設工事やコロナ感染の拡大などの事情により、工事車両を用いての大掛かりな設置は難しくなったが、現在も、校舎の3階から運動場に向けてロープを使って20匹以上のこいのぼりを取り付けている。毎年5月は、児童が登下校する頭上にたくさんのこいのぼりが舞い上がり、児童や地域の人を笑顔にしている。



【海を泳ぐこいのぼり】



【こいのぼりに向かってジャンプ】

## ウ 弓削商船高等専門学校、弓削高等学校との連携

本校では、弓削島にある弓削商船高等専門学校(以下「弓削商船高専」)や弓削高等学校(以下「弓削高校」)の協力を得て、ふるさと学習や児童の学力向上を目指した教育活動を行ってきた。また、防災学習、環境学習、ICT教育、課外活動においても、日頃から様々な活動に協力を得て取り組んでいる。

児童にとっては、より専門的な知識や技術を学ぶことができる。また、他校の教員や生徒に頑張りを褒めてもらうことで、自信をもったり、意欲や自己有用感を高めたりすることにもつながっている。弓削商船高専や弓削高校の教員からは、小学生に教えることで、生徒にとってもよい刺激になり学ぶことが多いと、温かい言葉が返ってくる。

双方にとってよい活動になるように、これからも両校と連携し、児童の育成に努めていきたいと考えている。

### (ア) 弓削商船高専の先生に学ぶ「防災学習」

6年生の防災学習では、地震の仕組や災害時に役立つ技術などを弓削商船高専の教員から教わった。児童は、地域の実態を踏まえて考えたり、ロケットストーブや手作りマスク、簡易ポンプを製作したりして、災害後の生活を乗り越える知恵を学んだ。地域をよく知る地域の方から学ぶことで、児童は自分のこととして、災害を防ぐには

どうしたらよいのか、災害時に何ができるのかを真剣に考えることができた。

高齢者が多く災害時に孤立しやすい離島において、地域の方と連携しながら防災学習に取り組み、考え、実践しながら学ぶことは、大切である。実習を通して専門的な学びができ、児童一人一人の真剣な取り組みにつながっている。



【防災の大切さについての話】



【ロケットストーブの制作】

#### (イ) 弓削商船高専生と一緒に「プログラミング学習」

令和元年度のプログラミング学習は、ロボットの操作を取り入れた。ロボットやそれを操作するためのタブレットは、弓削商船高専から借りて行った。

児童は、自分で組み立てたプログラムを基にして、ロボットを動かした。ゲーム感覚で活動を楽しみながら、その動作を確認し、サポーターとして入ってくれた弓削商船高専生から教えてもらいながら、よりよいプログラムに修正することができた。また、グループで協力してコースを走らせたり、友達のプログラムと見比べたりすることで多様な考えがあることやプログラムのよさに気付いていった。また、弓削商船高専生がサポート役として個々の質問や要望に対応できるようにしたため、児童全員が満足できる学習となった。



【弓削商船高専生とのプログラミング学習】

### (ウ) 弓削商船高専生と一緒に「陸上運動」

愛媛県小学生陸上運動記録会に参加する児童は、弓削商船高専の陸上部と一緒に練習する機会をもってもらっている。

児童一人一人の走り方を細かくチェックし、見本を示しながら丁寧に教えてもらえることで、短時間で自分の上達を実感でき、充実した時間となった。



【弓削商船高専生と陸上練習】

### (エ) 弓削高校の先生に学ぶ「生き物の不思議」

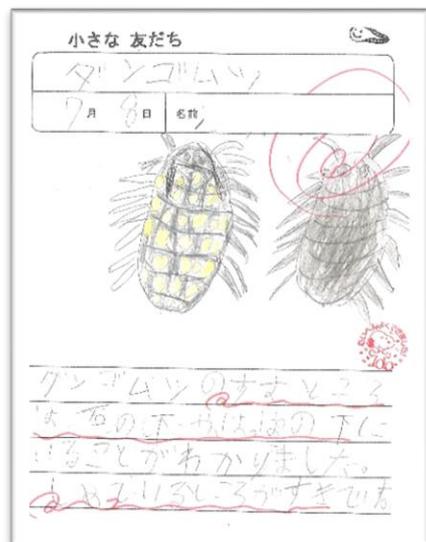
低学年では、生き物や植物、岩石などに詳しい弓削高校の教員を講師に招き、身近な自然について体験を通して学んでいる。

2年生では、ダンゴムシの生態について学んだ。ダンゴムシの好む食べ物や、オスやメスの見分け方、歩き方などの習性を楽しく学んだ。話を聞いた2年生は、「詳しく知ることによって興味が湧き、興味が湧くことで詳しく知りたい」という思いが高まり、学ぶことの楽しさを実感していた。

実験では、ダンゴムシが迷路を進み、様子を見ている児童から、「頑張れ」「こっちだよ。こっちに進め」と、自然に声が上がっていた。



【ダンゴムシの歩き方を確かめる観察実験】



【学習の振り返りプリント】

授業後には、「ダンゴムシが触れなかったけど、触れるようになった。」「すごくかわいい。」「いろいろ分かって、ダンゴムシが好きになった。」とうれしそうに話し、小さな生き物への愛着を持つ児童の姿があった。

### (オ) 弓削高生と一緒に練習する「金管バンド演奏」

本校は、運動会や町の敬老会で金管バンドパレードを行っている。メンバーは4年生以上で、放課後や夏休みが主な練習時間である。

夏休み中の練習には、弓削高校の軽音楽部の生徒と一緒に参加してくれ、演奏の仕方について実演も交えて教えてくれている。指使いや息の吹き込み方、演奏の盛り上げ方など、楽器ごとのパートに分かれ、丁寧に教えてくれる。

本校の卒業生が多い弓削高校の生徒は、自分が小学生の時の曲目や演奏の話もしてくれて、楽しい雰囲気の中で練習は進んでいる。児童からは、「分かりやすく教えてくれて、練習が楽しかった。」「自信がついた。すごく上手になった気がする。」など、笑顔でお礼の気持ちを伝えている。



【弓削高生との金管練習】



【敬老会や運動会で練習の成果を披露】